

パブリック・コメント手続(意見募集)結果

第2期がん対策推進計画の策定について 令和7年度(2025年度)～令和12年度(2030年度)

【公表日】

令和7年(2025年)1月21日(火)

横須賀市保健医療対策協議会

お問い合わせ先：民生局健康部健康管理支援課

電話 046-822-4307(直通)

横 須 賀 市



「第2期がん対策推進計画の策定について」に対するパブリック・コメント手続（意見募集）の結果について

1 意見募集期間

令和6年（2024年）11月11日（月）から12月2日（月）まで

2 意見の提出

6名の方から24件の意見提出がありました。

3 意見の提出方法

提出方法	人数
直接持参	2人
郵 送	0人
ファクシミリ	0人
電子メール	4人
合 計	6人

4 意見の内訳

項目		件数
1. 乳がん検診について		1件
2. 中学2年生のピロリ菌対策事業について	事業全体について	4件
	2-1 事業の考え方について	7件
	2-2 検査と治療の同意について	4件
	2-3 対象者について	4件
	2-4 課題・対策今後の取り組みについて	4件
合 計		24件

5 提出された意見の概要及び横須賀市の考え方

No.	意見の概要	件数	市の考え方
1	乳がん検診について		1 件
	受診率向上のため、検診施設が少ない地域において出張バス検診による検診を実施してはどうか。	1 件	貴重なご意見として、参考にさせていただきます。
2	中学 2 年生のピロリ菌対策事業について（事業全体について）		4 件
ア	ピロリ菌検査を行うのであれば、学校とは切り離し、予防接種のように個人に郵送で通知するべきだ。	1 件	本事業は、横須賀市がん克服条例に基づく事業として、開始時より、検査の必要性、検査方法、同意の確認方法等の詳細なご案内を、個別に対象者に送付しています。 また、検査の実施方法は、病気を予防する観点から、より多くの方に検査を受けていただけるよう、関係機関と検討を重ね、実施しています。
イ	20 歳・30 歳の胃がんリスク検診のように、希望者が医療機関や健康管理支援課で検査を受けられるようにしてほしい。 学校を検査のために利用せず、地域の病院・保健所にて実施してほしい。	2 件	胃がんを予防するという観点から、より多くの方が検査を受けることができるよう、通学先の市立中学校で検査を実施できる体制としていますが、体調等により、実施できなかった場合や、市立中学校以外へ通学される方が検査を受けることができるよう、市内協力医療機関や健康福祉センター、健康管理支援課で検査ができる仕組みを整えています。
ウ	除菌がすべてではない。健康被害についても市として慎重に検討して行ってほしい。	1 件	除菌治療による副作用等については本計画に記載しています。また、副作用の発生動向は常に注視し、適切に対応できる体制としています。 さらに、除菌治療を受けるか否かの判断は、ご本人及び保護者が、医師から直接、説明を受けた上で判断することができ、治療を強制されることはありません。

2-1	事業の考え方について	7 件
ア	中学 2 年生のピロリ菌検査は、学校保健安全法施行規則に定められた検査ではないので学校外で実施すべき。同検体でピロリ菌検査を同時実施することに疑問を感じる。	4 件 横須賀市がん克服条例に基づく市の施策として、令和元年度より中学 2 年生のピロリ菌検査を開始しました。これは、横須賀市民の将来の胃がんを予防する重要な施策であると考えています。 そのため、一人でも多くの方が検査を受けられるよう、市立中学校では学校尿検査と同時に検査を実施しています。
イ	中学 2 年生のピロリ菌検査事業の実施により、学校の業務が増え、管理のリスクも増える。学習活動への支障が著しく、生徒の学習権を侵害している。	2 件 本事業実施にあたり、ご本人、ご家族、さらに学校の負担とならないよう、横須賀市教育委員会、横須賀市医師会、横須賀市で協議を重ねています。
ウ	学校は医療データを収集する場ではない。	1 件 中学 2 年生のピロリ菌対策事業の目的は、中学生本人の胃がん予防であり、医療データの収集が目的ではありません。 ただし、事業の効果検証と事業改善のため、データ収集および分析は必要であり、本事業でも実施して参ります。
2-2	検査と治療の同意について	4 件
ア	検査の同意を確認する方法として、同意の記入不備の場合も同意したものとみなされているようだった。意思表示のない検査は行ってはいけないのではないかな。	1 件 中学 2 年生のピロリ菌対策事業の一次検査は尿検査であり、体への侵襲性（害）がないこと、また病気のリスクからお子さんを守る観点から、不同意でない限り検査を実施していますが、検査を希望しない方の意思は尊重され、強制するものではありません。
イ	保護者の同意を得る方法が本人が勝手に○をつける可能性など、確実でない。	1 件 ご本人及び保護者が納得して検査を受けられるよう、対象者には事前に検査の必要性、検査方法、同意の確認方法等について個別にご案内を送付しています。
ウ	必要な検査かどうかを、保護者及び生徒が、きちんと考えたうえで、検査希望者のみに検査を行う形にしたい	1 件 一次検査結果が陽性で確定検査や治療を受ける際には、医師から確定検査、治療法、副作用等について直接、ご本人及び保護者

エ	検査や除菌治療はあくまでもご本人や保護者の判断で受けたい人が受けるものだ。	1 件	に詳しく説明をします。 除菌をするか否かはご本人及び保護者の意思が尊重され、強制されることはありません。
2-3	対象者について		4 件
ア	未成年のピロリ菌検査は必要ないと思う。 小児に胃がんの発症はほとんどみられない。 中学2年生の子どもへの検査及び除菌治療は発達途中の子どもの体への負担を軽視しているのではないか。	1 件	ピロリ菌感染が胃がんのリスクであることは科学的に証明されており、国のがん対策推進基本計画（令和5年3月）、神奈川県がん対策推進計画（令和6年3月）にも明記されました。 ピロリ菌の感染期間が長いほど胃がんリスクは上昇するため、早期除菌が有効です。ガイドラインによれば、若年（15歳以上39歳以下）胃がんでもピロリ菌感染の関与が大きいとされています。そのため、中学生時期の検査が、がん発症予防のための検査時期として適切と考え、中学2年生のピロリ菌対策事業を実施しています。 本計画内で引用している H. pylori 感染の診断と治療のガイドラインは 2024 改訂版（2024.11.15 発行）が発行されたもので、計画完成版では最新版を掲載します。
イ	除菌治療は保険適用の範囲外であり、20歳以下の除菌治療は勧奨である。治療の副作用についての項目を設けること。	1 件	除菌治療の副作用については、48 ページ「ウー v 項目内容の説明」に記載があり、さらに 60 ページにはがん検診全般のメリット・デメリットについてもコラムを掲載しております。 また、一次検査で陽性となった方が確定検査や治療を受ける際には、医師からご本人及び保護者へ、確定検査、治療法、副作用等について詳しい説明を直接します。
ウ	対象者について「体重 35kg 以上が期待できる年齢」とあるが 35kg に満た	1 件	体重 35 kgに満たない方もいることは承知しており、現在は確定検査、除菌治療、判定検査は、対象外としております。

	ない生徒もいる		今回のご意見を参考に、一次検査で陽性になったにも関わらず、身体的要件等で検査・治療等を受けられない方への対応について、今後前向きに検討して参ります。
エ	子どもの検査により親の検査につなげるのは順番がおかしい。大人の検査をして陽性なら家族に検査を勧める形に順番を検討するべきだ。	1 件	ピロリ菌感染は家族内感染が感染経路の一つであることから、本事業をきっかけに親世代、祖父母世代の市民の方々がご自身のがん予防を考えるきっかけになることは本事業の主目的ではありませんが、望ましい派生効果であると考えています。 中学2年生時期の検査を受けなかった市民がより早い時期にピロリ菌の検査と除菌治療の機会が得られるよう、令和5年度より20歳・30歳の胃がんリスク健診も開始しました。 年齢に沿ったピロリ菌対策事業について、より分かりやすくなるよう、計画完成版では、第4章1（2）感染予防からのがん予防の掲載項目順序を整理し、修正いたします。
2-4	課題・対策今後の取り組みについて		4 件
ア	学校にはがん教育よりも優先すべき課題がある	1 件	平成29年3月に改訂された中学校、および平成30年3月に改訂された高等学校の学習指導要領内の保健体育では、生活習慣病の予防と回復について学ぶ際に「がんについても取り扱う」ことが新たに明記されました。 また、小学校においても、平成29年3月に改訂された学習指導要領の体育解説に、「喫煙を長期にわたって続けるとがんや心臓病などを発症しやすくなることに触れる」とされています。 平成27年3月の「学校におけるがん教育の在り方について報告」（文部科学省）では、がん教育の目標の一つとして、がんについて学ぶだけでなく、がんと向き合う

			人々との交流を通じて、自他の健康と命の大切さに気づき、自己の在り方や生き方を考え、ともに生きる社会の形成を目指す態度を育むと掲げられています。 そのため、がん教育は保健体育科を中心に教育活動全体を通して適切に行うことが重要であり、教科等の特質に応じた見方や考え方を通じて、自他の命の大切さを実感することにつながると考えられます。
イ	本人の意識や関心が重要だ。何も考えずに検査を受けてしまっは検査の意義・必要性が伝わらない。検診受診率の向上のみががん予防策ではない。	1 件	検診の目的や必要性への理解を少しでも深めることができるよう案内の内容の改善に努めていきます。
ウ	ピロリ菌検査について広く情報を公開すべきだ。	1 件	ピロリ菌検査の実績等については、毎年市議会で報告しており、ホームページでの閲覧が可能です。 今回のパブリック・コメントでも本事業のデータを広く公開すべきとのご意見もいただいております、収集したデータの公表に引き続き努めて参ります。
エ	49 ページの受診率向上の期待についての記載を削除してほしい	1 件	中学2年生のピロリ菌検査の受検率は、令和6年度より同一検体で実施したことにより、約2割向上しました。今後もこの方法による検査実施が受検率の向上につながると考えております。